丹波市まなびの里づくり協議会小委員会(第2回) 内容まとめ

日 時:令和5年4月 25 日(火) 19:00～

場 所:氷上住民センター 実習室

参加者:山内副委員長、荒木委員、松本委員、蔦木委員、福井部長、山内課長
前田係長、見田係長、大西生涯学習推進員、足立大希主査

協議内容:「生涯学習(まなび)を実践に生かす地域づくりの推進」に向けた取組
について(提言)

【主な提言内容(案)】

(1)生涯学習を実践に生かす地域づくりの推進に必要なこと

- ・地域におけるまなびを推進するキーマンの存在と役割(目指す市民像)
- ・人材育成
- ・「協働」の概念の理解

(2)地域・行政に必要なこと

- ・積極的な社会教育士養成のための周知
- ・自治協議会と連携、協働
- ・首長部局と教育委員会部局の連携、協働
- ・予算措置

(3)コーディネーター間ネットワーク構築

- ・各主体のコーディネーターとの連携・協働
(地域コミュニティ活動推進員・地域学校協働活動推進員など)

(4)市民活動支援センターとの連携

- ・地域のコーディネーターを育成するにあたり、丹波市における生涯学習の拠点施設である丹波市市民活動支援センターとの連携、協働を行う。そのための予算や体制の構築。

委員・参加者の意見

○提言書内容について

- ・【委員】行政の横断体制による地域教育支援体制の構築について
若手職員職員の地域での関係づくりが社会教育人材の育成につながる。
行政職員や、社会教育施設職員への研修も必要。
行政職員も含めた「社会教育人材ネットワーク」の構築。
→行政と自治公民館、自治協議会との連携体制の構築が重要ではないか。
- ・【委員】地域のまなびのコーディネーターの育成や配置について
社会教育人材の育成事業(社会教育人材の養成等)
地域おこし協力隊制度の活用をするのはどうか。
まなびのコーディネーターの育成は多世代のつながりを支援する役割にもなる。
- ・【委員】地域と行政の課題の認識があっているか。
まず市がどういうコーディネーターが必要かを示すことが重要。
自治公民館の運営にも地域差がある。
公民館主事も1年で交代することが多いなか、継続した人材育成の難しさもある。
- ・【事務局】まなびのコーディネーターのイメージ
公民館活動など地域(小学校区ごと)の情報共有。
人と人や組織と組織をつなぐ役割。
人づくり。学びの場づくり。
- ・【委員】まずは、現在地域のコーディネーターである地域コミュニティ活動推進員がまなびのコーディネーターを担う事がいいのか。
- ・【委員】地域学校協働活動推進員の機能と似ているところがある。コーディネーターの役割を整理して、生業になりえる待遇があるのが理想。
- ・【委員】今後、あらゆる世代の学びと実践のプラットフォームとなる「地域教育」という視点を持って議論をすることが重要。学校教育、社会教育、家庭教育で分けるのではなく、各組織や人の連携・協働による「地域教育」の展開が求められていくのでは。

次回、議論をもとに提言書(案)を事務局で修正。